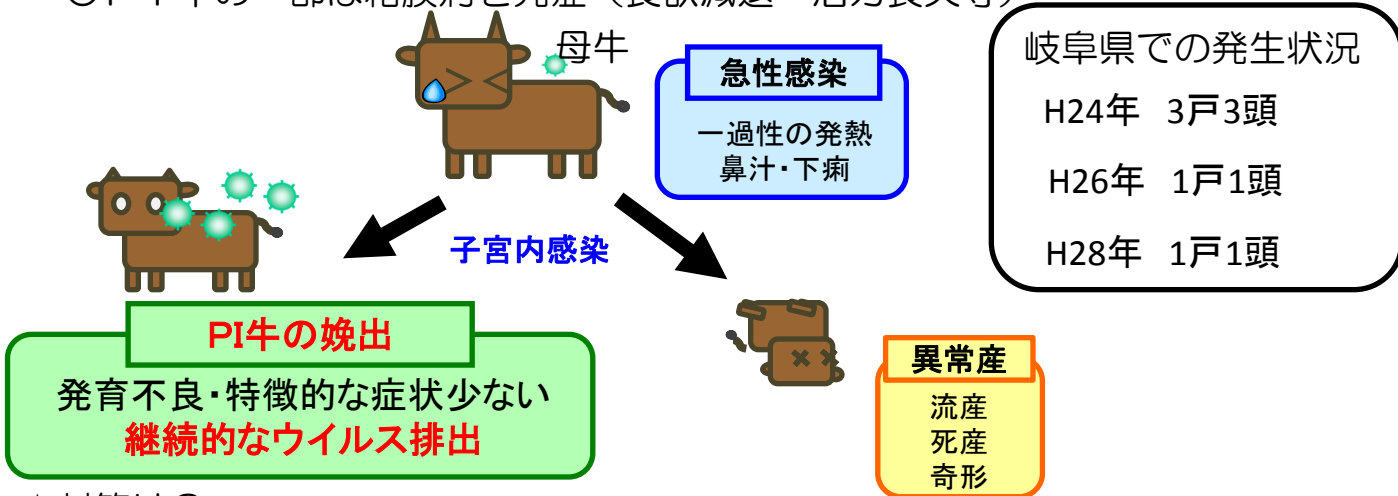


牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）ウイルス 持続感染牛（PI牛）の検査始めました！

県外導入牛のPI牛検査は導入検査の一環として
11月中旬分より実施中です。
県外導入牛の産子の検査を希望される方は
家畜保健所までご連絡ください。

★持続感染（PI）牛とは？

- 免疫のない母牛にウイルスが感染すると、子宮内感染し、特に胎齢40～100日前後の感染では、胎児の免疫機構が出来上がっていないため抗体を作ることが出来ず、PI牛として娩出されることがある
- 外見上、正常な牛と区別がつかず、妊娠したPI牛からはPI牛しか産まれない
- 生涯にわたり、ウイルスを排出し続け、周囲への感染源となる
(恒常的な牛群全体の繁殖性低下、乳量の減少等の生産性低下)
- PI牛の一部は粘膜病を発症（食欲減退・活力喪失等）



★対策は？

○ワクチン接種をして、感染を予防しましょう！

- ・妊娠牛には生ワクチンを接種できませんので、ご注意ください。
- ・ワクチンプログラムは裏面を参考にしてください。

○PI牛を農場へ入れないようにしましょう！

- ・導入の際には、隔離観察を行うとともに、ワクチン接種状況等を確認しましょう。

○早期摘発・淘汰のために、検査をしましょう！

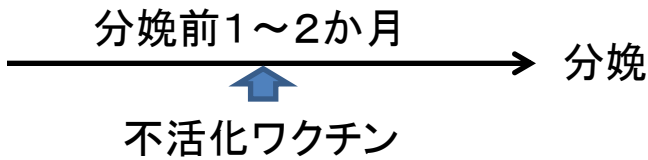
- ・PI牛が見つかったらその牛を淘汰するとともに、同居牛に感染していないか必ず確認しましょう。

BVD—MD ワクチンプログラム

搾乳牛及び繁殖雌牛

《 妊娠牛に生ワクチンは接種できません！！ 》

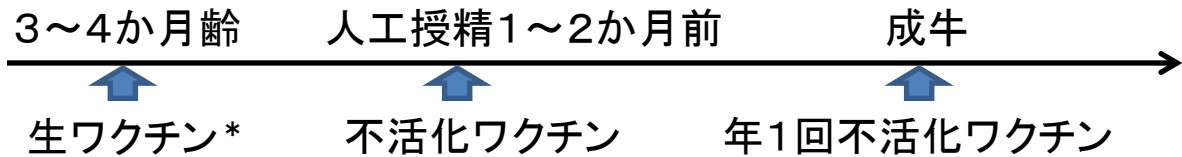
- 年1回の不活化ワクチンの接種が基本です
初回は2回接種を！！（接種間隔は4週間ほどあける）



◎分晩1～2か月前の不活化ワクチンが理想ですが、接種漏れが出ないよう、一斉接種の実施でも効果はあります。

繁殖候補牛

- 自家育成の場合 子牛の時期に生ワクチンを2回、
成牛になったら年1回不活化ワクチン



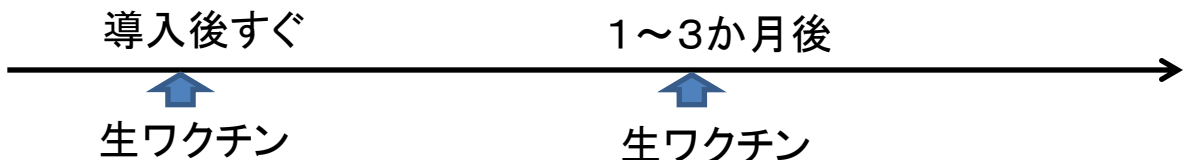
* 生ワクチンは、BVD1型2型の両方を含むカーフウイン6が良い

- 導入の場合 導入後すぐに不活化（妊娠していなければ生）ワクチン、
その後は年1回不活化ワクチン



肥育牛

- 生ワクチンを2回接種（導入が10か月齢以降の場合、導入後1回）



東濃家畜保健衛生所

恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL(0573)26-1111(内線395) FAX 25-7669